

Tokyo Metropolitan Archaeological Center

たまのよこやま

令和8年度企画展示関連コラム

歩こう！多摩の遺跡たち

～初級編～ ……2

- 遺跡だより 北区 十条台遺跡群 ……4
- あの遺跡は現在!? 福生市 長沢遺跡 ……5
- 調査員の研究ノート 橋本 望 調査研究員 ……6
- 夏休みイベント告知 2026 ……8

夏休みも
楽しいイベント
盛りだくさん!



歩こう！多摩の遺跡たち

初級編

多摩には数多くの遺跡があります。今年度の企画展示ではその一部をご紹介しますが、展示室で見知った遺跡をさらに深く理解したり、まだ見ぬ遺跡と出会うために、遺跡を訪ね歩く旅に出てみませんか。その第一歩として、今回は西東京市にある“駅近”の国指定史跡 下野谷遺跡を訪ねる旅へ皆さんをご案内します。

国指定史跡 下野谷遺跡とは 下野谷遺跡は西東京市東伏見にあり、石神井川沿いの台地（高台）から低地にかけて広がっています。台地の上からは縄文時代中期（約5,000～4,000年前）の環状集落が見つかっており、南関東で有数の規模と内容を持つことなどから、一部が国の史跡に指定されています。環状集落とは、住居跡がドーナツ状に並ぶ集落のことで、ドーナツの穴にあたる中央の広場は、墓域や祭祀の場などとして利用されたと考えられています。そして下野谷遺跡は、環状集落が谷を挟んで東西に2つ並ぶとても大規模な遺跡なのです。

以上が遺跡の概要ですが、まだプロフィールを見た

だけの、顔も知らない他人という感じがします。環状集落の広さや景観を五感でイメージするには、遺跡の「人となり」を知りに現地へ訪れるのが一番です。遺跡の一部は下野谷遺跡整備地「したのや縄文の里」として公開されていますので、早速訪れてみましょう。

出発 スタート地点は遺跡の最寄り駅である西武新宿線東伏見駅です。駅南口を出てロータリーを渡ると、「したのやムラの仲間たち」のモニュメント（下図参照）が出迎えてくれます。簡単な地図と遺跡の解説も設置されているので、ぜひチェックしていきましょう。お時間のある方は、駅周辺にある他のモニュメントを探してみてもよいかもしれませんね。

早大グラウンド通り～下野谷橋 ロータリーの南側から早大グラウンド通りに入ったら、まっすぐな一本道を5分ほど進みます。石神井川に架かる下野谷橋を渡ると、目の前に上り坂——遺跡のある台地が現れます。

到着 橋の目の前にある階段を上がってもしたのや縄文の里に入ることができますが、詳細な案内板が設置され



東伏見駅から遺跡整備地「したのや縄文の里」までのルート（徒歩10分程度）



土屋根による竪穴住居の復元展示（写真提供：西東京市）

ている正面入口は、上り坂の先の十字路を右折したところにあります。こちらにはトイレや東屋あずまやも設置されているので、ゆっくり休憩もできますよ。ちなみに先ほどの上り坂は東西の環状集落を隔てる谷にあたり、したのや縄文の里は西集落の範囲内にあります。

したのや縄文の里 一息ついたら、さっそく散策しましょう！整備地内には2棟の竪穴住居と墓域、そして土器溜まりが復元展示されています。

住居は土屋根つちやねで復元されています。土屋根とは屋根板に土をかぶせた屋根の形態で、岩手県御所野遺跡などで確認されているものです。ここ10年間ほどの復元事例では、茅葺屋根かやぶきやねに代わって増えつつありますが、遺跡の上で土屋根による復元住居を見ることができるのは、都内ではここだけです！

復元住居の南側の広場には、こんもりとした土盛りが集中しています。これは環状集落の中央の広場にあった墓域の景観を復元したものです。現地で見ると、墓域と住居の配置から実際の環状集落の大きさを想像すると、その広さを実感できます。

北側の住居の裏には、古い住居跡の窪みくぼを利用した土器溜まりの模型も展示してあります。現住の住居と土器溜まりが並ぶ景観は、縄文集落あるあるのひとつ



墓域の復元展示



土器溜まりの模型

です。土器溜まりの模型は調査時の姿で再現されているので、いろいろな見方ができて面白いですよ。

もっと知りたい方へ まだまだ元気のある方は、2駅先の田無たなしき駅たなしきからバスで10分の西東京市郷土資料室に足を延ばしてもよいでしょう。下野谷遺跡を含む市内の遺跡の出土品を見ることができます。また、毎年秋にはしたのや縄文の里で遺跡の解説や火起こし体験などを楽しめる「したのや縄文の里 秋まつり」が開催されますので、参加してみたい方はぜひ参加してください。

さらに今年の9月12日（土）には、当センターに西東京市の学芸員をお招きし、同市の縄文時代の遺跡についてご紹介いただく講演会を予定しています。これは「入門！多摩の縄文時代」と題する全5回の連続講演会の第1回（西東京市編）にあたります。9月から1月までの5か月間、テーマとなる自治体を変えて毎月一回開催予定ですので、多摩の遺跡との出会いの場として、ぜひご活用ください。

さて、今回の散策ルートは駅から徒歩10分の初級編でしたが、今後はもう少し時間のかかる中級編、健脚家向きの上級編、登山に近い超上級編のご紹介も予定しています。ご期待ください！（宮本 由子）



したのや縄文の里 秋まつり（写真提供：西東京市）

北区 十条台遺跡群

所在地 : 北区中十条2・3丁目
 調査期間 : 2012年11月～(調査継続中)
 調査面積 : 16,326㎡

十条台遺跡群(北区No.19遺跡)は、^{むさしのだいち}武蔵野地東縁の^{じゅうじょうだいちがいせん}十条台地崖線に沿うように、東西0.7～1.1km、南北約1.8kmの広がりを持つ遺跡群です。遺跡範囲を縦貫する都道の拡幅事業に伴い、当センターでは発掘調査を平成24年から継続的に実施しています。発掘調査範囲は、遺跡群の中央部から北側、東西約0.5km、南北約0.9kmにあたり、東に荒川が流れる低地部、西は河川が開折した谷に挟まれた、標高約21mの南北に細長い尾根状台地に位置しています(図1)。

令和2年度までの発掘調査については、報告書『十条台遺跡群Ⅰ～Ⅲ』として刊行されており、縄文時代の土坑、弥生時代中期から後期の^{たてあなたてものあと}竪穴建物跡や溝、古墳時代中期の竪穴建物跡、中世の「鎌倉街道中ツ道」^{かまくらかいどうなかつみち}や近世の「日光御成街道」^{にっこうおなりかいどう}とみられる道路跡、「十条富士塚」^{ふじづか}など多くの成果が報告されていますが、近年の発掘調査でも新たな発見と課題が得られています。

その一つとして、遺跡の西側に広がる谷に接続する^{まいぼつだに}埋没谷の存在が明らかになりました。この埋没谷は、谷を挟む地区と谷内部の地区の調査によって、南北0.1kmの間で2m以上の深さがあったことがわかっていま

す。現在は都道の下に埋もれてしまっていますが、いつ頃埋められたものかについては今後の調査結果によって明らかにしていきます。

この埋没谷の中にあたる調査区からは、中世以前に造られたとみられる数条の溝が検出されました(図2)。規模は幅1～2m、深さは30cm～90cmと一定ではありませんが、遺構の主軸方向が近世の遺構とは異なることや、遺構の覆土から^{ふくど}弥生時代中期から後期の土器が検出されたことなどから、弥生時代を中心に見られるお墓である、四隅切れの「方形周溝墓」^{ほうけいしゅうこうぼ}の溝の可能性が高いと考えられます。弥生時代のものともみられる溝は他の調査区でもみつっていますが、多くは単独であり、複数が集まって検出されたのは初めてです。これまでのところ埋葬施設の存在を裏付ける他の痕跡は確認出来ていませんが、周辺では竪穴建物などの痕跡は希薄であり、埋没谷周辺を「墓域」としていたことも考えられます。いずれにしても、弥生時代の人々の活動を示す有力な手掛かりであることは間違いありません。

残る調査区は周辺の状況から、埋没谷が最も深くなる位置と推定され、古い時代の遺構・遺物が残っている可能性が高い場所です。埋没谷の旧地形を明らかにすること、近世以前の道路などが谷の周辺でどう展開しているのか、弥生時代に造られたとみられる溝や別の遺構が新たに検出されるのか、といった課題が集約する地点でもあるため、慎重に調査を進めたいと思います。(藤丸 亮介)

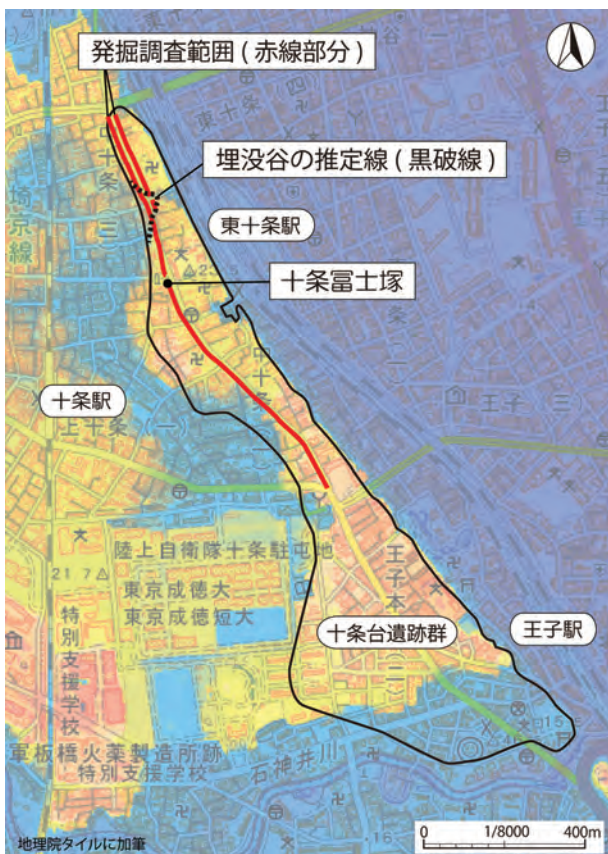
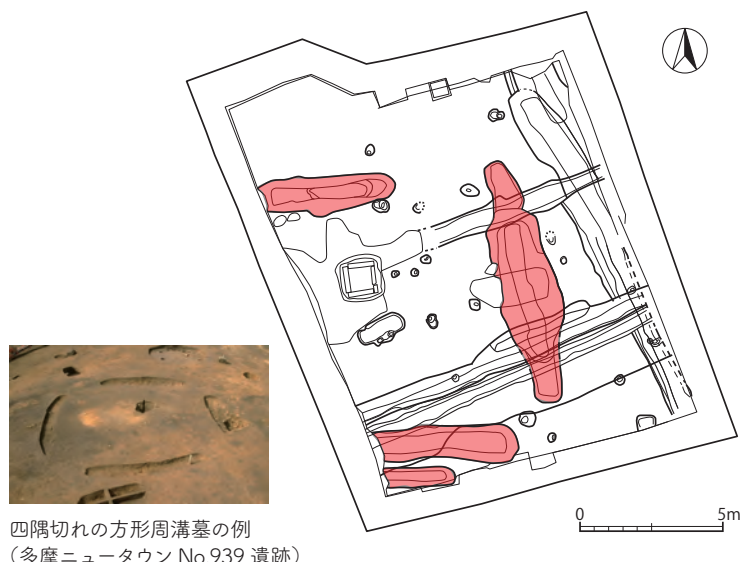


図1 十条台遺跡群の範囲と発掘調査の範囲



四隅切れの方形周溝墓の例
(多摩ニュータウンNo.939遺跡)

図2 埋没谷から検出された溝(トーン部分)

いま あの遺跡は現在！？ Vol.27

— 東京消防庁^{ふっさ}福生消防署 福生市長沢遺跡^{ながさわ} —

このコーナーでは、東京都埋蔵文化財センターが発掘調査した遺跡の現在の様子をご紹介します。

JR 福生駅から西へ進み、都道 29 号を北上すると、右に福生第一小学校、その少し先に福生消防署が見えてきます。そして、福生消防署の斜め向かいには福生神明社^{ふっさしんめいしゃ}があります。今回ご紹介する長沢遺跡はこの辺り一帯に広がる遺跡で、福生市内最大の縄文集落の遺跡と言われています。福生消防署の改築工事に伴い、当センターが第十次調査にあたる発掘調査を行いました。

発掘調査では、予想どおり、縄文時代の遺構や遺物が数多くみつかりました。長沢遺跡の縄文集落は、縄文時代中期中葉（約 5,000 年前）と、中期後葉（約 4,700 年前）との 2 つの時期があることが分かっています。第十次調査では、中期後葉の集落中心部の様子を把握することができました。

長沢遺跡が立地するのは、多摩川^{かいたく}が開削した河岸段丘^{かがん}上です。第十次調査地点である福生消防署から少し西へ移動すると、下り坂になっている様子が分かります。こうした段丘崖^{だんきゅうがい}では、しばしば湧水^{どうずい}が見られます。福生神明社の裏にある「堂川湧水」は、かつての「堂川」^{しの}を偲び、復元されたそうです。

多摩川沿いの崖線^{がいせん}では多くの場所で湧水が確認され、その近隣では遺跡が発見されています。長沢遺跡の縄文の人々の暮らしも、こうした湧水が支えていたのでしょう。（小西 絵美）

◆調査成果が掲載された報告書

2022『福生市長沢遺跡（第十次調査）』東京都埋蔵文化財センター調査報告第 371 集 東京都埋蔵文化財センター
※写真 1・2 は上記報告書から引用



写真1



写真2

写真1 縄文時代中期後葉の第1号竪穴建物。建物の中央には、地中に埋めた縄文土器を石で囲んだ炉が設けられている。

写真2 第1号竪穴建物から出土した縄文土器。炉に使われたのは後列中央の連弧土器^{れんこもん}で、横に連続する半円弧状の文様が特徴。



写真3



写真4

写真3 改築されて新しくなった福生消防署庁舎。建物中心部の発掘調査は、長沢遺跡第一次調査として、昭和45年に実施された。

写真4 復元された堂川湧水の水路。説明板によれば、堂川は昭和38年頃まで福生神明社の西側辺りを流れていたとされている。

調査員の研究ノート

こんな研究しています

#10 調査研究員 橋本 望



当センターの調査研究員が行っているさまざまな研究をやさしく紹介するコーナーです。

大蔵遺跡について

私は東京都世田谷区大蔵三丁目に所在する大蔵遺跡（世田谷区遺跡No. 30）の発掘調査を行い、現在はその調査成果を報告書にまとめるべく整理作業を行っています。本稿ではその調査中にわかったことと、今後検討して報告書にまとめる予定の成果について述べたいと思います。

大蔵遺跡は、標高約40mを測る武蔵野台地の縁辺部に立地しています。本遺跡はこれまで13次及び発掘調査が行われており、特に縄文時代中期前葉～後葉の集落遺跡として知られています。

今回の調査範囲は本遺跡の南東部分にあたり、大蔵団地の建て替え工事に先立って調査が行われました。調査範囲の西半は、昭和30年代の宅地化に伴って立川ローム層Ⅲ～Ⅳ層上面まで削平され、縄文時代以降の遺構・遺物の検出はわずかでした。一方で、調査範囲北西の崖線沿いからは、大蔵遺跡のこれまでの発掘調査ではほとんど出土していない旧石器時代の遺物が数多く出土しました。主にⅣ層下部～Ⅴ層（約2万6000～2万8000年前）から礫集

中部や遺物集中部が複数検出されており、角錐状石器・ナイフ形石器・スクレイパー・石核・剥片といった遺物のほか、水晶製の石器も出土しています。

調査対象地の東半は、縄文時代の遺物包含層が良好に残っていました。調査では、縄文時代早期・前期・中期・後期（約1万1000～4000年前）の遺構が検出され、縄文土器・石鏃（矢尻）・打製石斧・敲石・スクレイパー・剥片などが出土しました。後期の土坑墓からは死者に伴って埋められたと考えられる堀之内式の土器片一個体分が出土しました。

縄文時代に関する検討課題について

今回の発掘調査では、石器を製作していた痕跡である可能性がある土坑も検出されています。土坑からは、黒曜石製の石鏃などの石器が出土したほか、土坑の覆土（埋まっていた土）を回収して篩にかけたところ、石器を細かく削って加工した際に生じる小さな剥片が1000点以上出土しました。これらの黒曜石製の石器については、蛍光X線による原産地分析を実施する予定です。黒曜石は地中のマグマが急激に冷えて固まって生じた天然のガラスですが、含まれる成分が産地によって異なることがわかっています。関東地方で使用される黒曜石の産地としては信州（長野県）系や箱根系、栃木県の高原山、伊豆諸島の神津島などが知られています。世田谷区内や東京都内の遺跡から出土した黒曜石を時代別に分析したところ、縄文時代中期後半後葉にこれまで主に使用されていた神津島産の黒曜石に代わって信州系の黒曜石が主体的に使用されるようになることが指摘されています。時期によって特定の産地の黒曜石だけが使われるわけではないのであくまで傾向ではありますが、黒曜石の産地を推定することで、それらの遺物や土坑の年代を指し示す手がかりの一つとなる可能性があります。

また、今回の調査では少量ですが縄文時代前期の浮島式土器が出土しています。浮島式土器は貝殻の縁で文様を施文しているのが特徴で、茨城・千葉・栃木県など東関東を中心に分布する土器型式です。



図1 大蔵遺跡の遺構配置図

土器に用いられている胎土^{たいど}の分析を行うことで、浮島式の土器が遺跡の外から持ち込まれてきた可能性についても検討する予定です。

江戸時代以降の遺構について

発掘調査では、上記で述べた旧石器時代・縄文時代より新しい時代の遺構・遺物も見つかっています。

写真1は、調査範囲南東部で検出された南北方向に延びる溝状遺構です。写真の範囲では3条の溝状遺構が並行し、東側の溝状遺構は南端で東に約90°屈曲しています。溝の中からは江戸時代後期の堺産^{さかい}の播鉢片^{すりばち}等が出土しました。この溝状遺構を大蔵団地建設以前である1947（昭和22）年の空中写真と重ねたものが写真2です。調査範囲南東部の溝状遺構は畑の区画の方位と一致しており、大蔵地域の民俗調査でも木の根が畑に入り込むを防ぐための“根切り”の事例が報告されていることから、畑の区画溝や根切りの溝であると考えられます。古地図を調べると、調査範囲は大蔵住宅が建設されるまで継続して畑として利用されていることから、江



写真1 江戸時代以降の溝状遺構（南から）



写真2 1947（昭和22）年の空中写真

戸時代から大蔵住宅が建設される昭和30年代までの遺構ということになります。

また、調査ではコンクリート管も検出されています。その位置を古い空中写真と比較すると、畑のクroppマーク（土壌などの違いが植物の生育の差となって現れる模様）と重複し、調査範囲のさらに西側へと伸びていることがわかります。コンクリート管の埋設に伴って掘り返された範囲がクroppマークとなって現れているのです。1941（昭和16）年の空中写真に見える調査範囲東側の国立大蔵病院と同時に現れていることから、それに伴う下水管であると考えられます。

写真3はドローンで空中から撮影した写真です。調査範囲には大蔵団地の建物基礎が残されていましたが、その中には周囲に1列もしくは2列の小さな穴が並んでいるものがありました。深さは確認面から30～45cmほどで、覆土には径の大きいロームブロックなどが含まれており、縄文時代など古い時代の遺構ではないと判断できました。これはいったい何かと調べたところ、昭和30年代の大蔵住宅の建設当時、木材を金属線で組んで作られた丸太足場を地面に打ち込んだ跡だとわかりました。現在の工事現場ではよく金属製の足場が組まれますが、この当時はこうした木製の足場が使用されていたのです。現在でも、神社仏閣や文化財になっている建物の修復工事には丸太足場が使用されている場合があります。

遺跡の内容等にもよりますが、江戸時代以降の遺構についてもその性格を把握し、報告書に掲載するかどうか判断したいと思います。

なお、調査報告書の刊行は令和9年度を予定しています。



写真3 大蔵団地建物基礎周辺の小ピット列

思い出や自由研究に！

7～9月のイベント



とまいぶんPR係
ナンデくん

親子 縄文土器づくり



本物の縄文土器をじっくり観察して再現しよう！

お子さま考古学教室



弓矢体験やクルミ割り体験などで楽しみながら考古学を学ぼう！

親子で縄文の森遊び



縄文の森を歩いて植物ずかんをつくろう！木の実をつかったシャボン玉遊びなども。



イベント一覧

📍 展示解説 🌿 庭園 😊 体験 🗣️ 講演会・発表会・上映会

※展示解説(📍)と体験行事(😊)は、異なる回でも基本的に同じ内容です。

日時(予定)		行事名		対象	人数	申込	締切予定日
7月	11日(土)	9:45 ~ 12:00	📍 とまいぶん解説ツアー(1)	どなたでも	15名程度	当日受付	-
		13:30 ~ 15:30	🗣️ 映像上映会	どなたでも	90名	事前申込	6月25日
	23日(木)	9:45 ~ 12:00	😊 親子 勾玉作り(1)	親子等	12組(24名)	事前申込	7月7日
		13:30 ~ 15:45	😊 親子 勾玉作り(2)	親子等	12組(24名)	事前申込	7月7日
	25日(土)	9:45 ~ 16:00	😊 親子 縄文土器作り ※8/15の野焼きにも必ずご参加ください	親子等	12組(24名)	事前申込	7月9日
	29日(水)	9:45 ~ 12:00	🌿 親子で縄文の森あそび	低年齢向け	12組(24名)	事前申込	7月13日
30日(木)	9:45 ~ 12:00	😊 お子さま勾玉作り(1)	低年齢向け	12組(24名)	事前申込	7月14日	
	13:30 ~ 15:45	😊 お子さま勾玉作り(2)	低年齢向け	12組(24名)	事前申込	7月14日	
8月	1日(土)	9:45 ~ 12:00	😊 親子 火おこし道具作り	親子等	12組(24名)	事前申込	7月16日
		13:30 ~ 15:45	😊 親子 縄文の布作り	親子等	12組(24名)	事前申込	7月16日
	15日(土)	9:45 ~ 13:30	🌿 縄文土器の野焼き(1)	どなたでも	見学自由	当日受付	-
	20日(木)	9:45 ~ 12:00	😊 お子さま考古学教室(1)	低年齢向け	12組(24名)	当日受付	-
		13:30 ~ 15:45	😊 お子さま考古学教室(2)	低年齢向け	12組(24名)	当日受付	-
	21日(金)	9:45 ~ 12:00	😊 お子さま考古学教室(3)	低年齢向け	12組(24名)	当日受付	-
13:30 ~ 15:45		😊 お子さま考古学教室(4)	低年齢向け	12組(24名)	当日受付	-	
23日(日)	9:45 ~ 12:00	😊 親子 勾玉作り(3)	親子等	12組(24名)	事前申込	8月6日	
	13:30 ~ 15:45	😊 親子 勾玉作り(4)	親子等	12組(24名)	事前申込	8月6日	
26日(水)	9:45 ~ 12:00	😊 親子で縄文土器と友達になろう！	親子等	10組(20名)	事前申込	8月11日	
	13:30 ~ 15:45	📍 とまいぶん解説ツアー(2)	どなたでも	15名程度	当日受付	-	
9月	9日(水)	9:45 ~ 15:00	😊 古代の糸作り(2)	大人向け	12名	事前申込	8月26日
	12日(土)	10:30 ~ 11:30	📍 学芸員ギャラリートーク「大昔の多摩を語る」(1) ※常設展示解説	どなたでも	10名程度	当日受付	-
		13:30 ~ 15:30	🗣️ 企画展示関連講演会「入門！多摩の縄文時代」(1)西東京市編	どなたでも	90名	事前申込	8月27日
	30日(水)	9:45 ~ 12:00	😊 縄文の布作り(2)	大人向け	12名	事前申込	9月16日
		13:30 ~ 15:45	😊 勾玉・耳飾り作り(2)	大人向け	12名	事前申込	9月16日

※締切予定日後に追加募集を行うことがございます。最新の募集状況については、ホームページをご覧ください。
※「事前申込」はWebの申込みフォームまたは往復はがきでの申込となります。

1 Web 申込

当センターホームページの「イベント・教室」ページからお申込みください。

2 往復ハガキでの申込

・「どなたでも」「大人向け」の行事では1人につき1枚、「親子等」「低年齢向け」の行事では1組(2名まで)につき1枚の往復はがきが必要です。
・「行事名・住所・氏名・年齢・電話番号」をご記入の上、〒206-0033 多摩市落合1-14-2 東京都埋蔵文化財センター〇〇〇(行事名)係宛にお申込みください。

- 参加可能な年齢等、募集の詳細は申込締切日の約一ヶ月前に当センターホームページの「イベント・教室」ページ内に掲載いたします。お申し込み前にホームページをご覧ください。お電話でお問い合わせください。
- いずれの行事も応募者多数の場合は抽選となります。
- ご記入いただいた個人情報は該当事業実施の目的のみに利用します。利用目的に同意の上、お申し込みください。
- 記録・広報活動への利用のため、イベントの様態を撮影いたします。撮影した写真の公開時には、ぼかし処理など顔が判別できなくなるような処理を適宜行いますが、ご承諾おきのうえ、お申し込みください。

すべて無料だよ！



※今号の表紙：西東京市 下野谷遺跡整備地「したのや縄文の里」



たまのよこやま 145
東京都埋蔵文化財センター

2026年6月30日発行

〒206-0033 多摩市落合1-14-2 TEL 042-373-5296 <https://www.tomaibun.jp/>

